



12年前日記

2000年1月26日
(水)

山田夫妻

【2000年1月26日(水)】*2012年1月26日(木)記

7時、起床。朝イチからこういうこと言うのもなんだが、俺は同じ失敗を繰り返さない男としても有名だ。二日連続寝坊するなんて醜態を晒すことなく、こういう日に限って超早起き。俺はニュー俺に生まれ変わったんだ。が、さすがにまだ昨日の痛手が...、ううん、こっちの話。やっぱり朝は余裕を持って、一日の始まりに備えたいよね。まあ、今日の予定は特になしなんだけどね、もち明日以降もね、てか死ぬまでね。ちゃんと死ねるかしらん。とりあえず、こんな街にこれ以上いても何の意味もない。何がラチャブリだ、変な名前、ば〜か。ふん、もうどうでもいい。と尻尾をまいて、ラチャブリからとりあえずホームタウン、第二の故郷、バンコクに帰るとするか。実はバンコクにいること自体、かなり前から既に意味がないんだけどね、シッ〜。またチェンマイにでも行こうかなあと思って、いいことを思いつく。あ、帰り、バスにすれば安上がりだ。そう、チェンマイ帰りみたいにきっとバンコクまでバスがあるはず。安上がりで早いはず。しかもあの不運な電車に乗らずに済むし、あの不吉な駅だ駅員を見なくても済む。バンコクのファランポン駅に戻って、あら、また太った？ てか、もうラチャブリから逃げ帰ってきたのって後ろ指さされて、慌てて顔を押しさえて、駅のトイレに逃げ込んで、●B取られずに済む。現時点で既にバスの方が●B安上がり。ホテルのフロントでバンコク行きのバスがあるか聞く。予想通り、バスターミナルから出ているそうだ。チェッ、行きもバスにしておけばよかったよ。11時、荷物をまとめて、チェックアウト。フロントで教えられた通り、フラフラ歩いて、無事にバスターミナルへ。バンコク行きのバス切符(63B)を買う。電車の切符より2B安い。先程、概でにトイレ代●Bが浮いているので、計2+●B安い。11時40分、冷房の効いていない車内の古ぼけた座席に腰掛け、動き出した車窓からラチャブリの街を眺めて、ぼやける。汗が目にはいっただけ。その途端、国境なき医師団の支店がラチャブリにあったことを思い出す。まさに後の祭り、ワッショイワッショイ。13時10分、電車より2+●B安い上に、1時間近く早くバンコクの南バスターミナルに着く。14時、また国立競技場近くの安宿街にある『Muangphol Mantion Hotel』へメータータクシーで乗り付ける(90B)。バスターミナルから安ホテルまでのメータータクシー代の方が、ラチャブリ行きの電車より、ラチャブリ戻りのバスより、高いでやんの。こんなことどうでもいいけど、小銭勘定するくらいしかやることも、楽しみもねえんだよ。ブツブツ本音を撒き散らしながら、チェックイン(450B)して、部屋にて荷物を解く。14時30分、ホテルを後にして、バンコクで唯一の知り合い、クソ野良犬にただいまの挨拶して、遅めの朝昼兼用飯を食いに出掛ける。久しぶりのバンコクに戸惑ったのか、昼夜逆転で昼に8番ラーメンをば(150B)。そうそう、この懐かしい味、バンコクのおふくろの味にホッとす。オッと危ない、ちょっとでも気が緩むとつらい現実が体を支配してくる。さあ〜、俺は自由だ。何をしようかしら。何をしようかしら。何をしようかしら。...何を〜。目に付いたダンキンドーナツ(33B)に飛び込み、ドーナツ片手にひたすら読書。この行為はもはや現実逃避とかそういうありふれた生ちょっろいレベルじゃない。

こんなときもドーナツは甘くておいしい。偉大なり。って、こんなこと書いちゃいけない。但し、どんなドーナツを食べたかは覚えていない。ま、本当に大事なことって、そんなもんだろ。って、こんなことも書いちゃいけない。このときのそう簡単に誰もが味わえるわけではない、人生の苦味に触れた大人の男だけが味わえるドーナツの味は一生忘れない。もうどんなに太っても構わない。もう好きにして、だ。ま、こんなとこだろ。銀行に寄って、トラベラーズチェック100ドルを3666Bに換金。16時30分、ホテルに戻る。すぐに昼寝。小慣れたもの。19時、このまま朝までオールで昼寝するつもりが、目が醒めてしまったので、仕方なく夕飯を食いに行く。夜にマック(100B)。そうそう、この味、バンコクのおふくろの味。ちょっと都会の味。読書の合間に活字を追う目をふと上げて、マックの薄汚れた大きな窓からバンコクの夜景があら、まあ、きれいだこと。交通渋滞と大気汚染も輝いてみえる。生きてるって、人生ってすばらしい。明日は昼マックにしよ、で、夜8番ラーメンね。もう修行というか苦行だ。21時、ホテルに戻る。すぐにシャワーを浴びて、電気を消して、ベットにもぐり込む。暗闇におやすみなさいとポツリつぶやいて、目を閉じる。更なる漆黒の闇闇闇...。パチリ。目が冴えて全然寝れない。てか、もう辛抱たまらん。堪忍やで。と気持ちリリース。無理無理、何にもなかったことにして、ちょっと感傷的にオシャレぶって生きていくなんて絶対無理。ちょっとどうすんのよ！ この大失態！ てか何がどうなってんだか、ほぼ何も起こっていないのに、この気持ちの混乱振り醜態はどうよ、一昨日と今日していることにほぼ違いはないのに。どうどう、ちょっと待て、落ち着いて考えてみよう。俺はバンコク慣れに失敗し、え、そこからプレイバックかよ、ま、いいだろう、中学時代から振り返るよりは、まあ、さすがにそれはありえないからな、じゃあ、バンコク慣れに失敗して、さあ、どうした？ チェンマイに高地静養に行き、主にウンコを漏らす。ようやく症状が回復し、満を持して帰バンコク。さあ、体も元気になったし、仕事を再開してバリバリ働こうとしたがあえなく年末年始休みに。年明けに難民キャンプの取材パスを貰うために、内務省をたらい回しにされた挙句、この男は一体何がしたいんだという紙切れをゲット。もう完全にグレて、バンコクの不良になって、マックと8番ラーメンに入り浸る。その合間合間に、犬に噛まれたり、美人局にあっりと忙しいが充実した日々を送る。そうそう忘れちゃいけないのは、古本買ったり、古本売ったり、古本屋になったり。苦労の連続を乗り越えた、苦労の甲斐あって、ラチャブリの病院をカレン族が襲撃する大事件勃発の報を偶然日本の情報源より聞いた晩もよく眠り、翌朝おっとり刀でラチャブリに3時のオヤツタイム頃に駆けつけるも、事件は朝飯前に終わっていて、とりやけ食い。バンコクに戻ってきて、難しいことを何も考えず、さっきから寝ようとしてるけど、遅めの昼寝したから眠れない、と。で、もう万策尽き果てた感は否めない。ホントはさあ、ずっと前から二進も三進もいかんわけですわ。例のこの男は一体何がしたいんだ事件以来。男の意地でやせ我慢して踏ん張ってきたが、体力の限界、気力の限界、ヤル気の限界、あのときから選択肢一つだけ、日本に逃げ帰る。早く体勢を立て直し、捲土重来を期し、またバンコクに来るしかない。え～、また来るの、こんなとこに。うるさい、一晚よく考えて頭を冷やせ、このままじゃ、お前は初取材はチェンマイでウンコ漏らして、内務省でたらい回しだけされた挙句、「おまえはいったいなにがしたいんだ」って紙切れ一枚ゲットして、落ち込んでバンコクでブラブラしてたら野良犬に噛まれたり、酔っぱらって美人局にあっ

て高級ホテルのロビーで醜態を晒したりの手口は果てに、日本の情報に踊らされてラチャブリ行ってすぐ帰ってきた人みたいな成果で終わっちゃうぞ。これまでの戦場語録、暑い、だるい、馬鹿馬鹿しい、うんこでもするか、うんこ漏れちゃった、うんこのついたパンツどうしよう。帰りたい。バンコクでお家芸のマックと8番ラーメンと古本屋漁りとチェンマイでウンコ漏らしてとラチャブリでケンタッキー食べただけの人みたい。バンコクでは内務省観光もしたくらい。後は、秘密だけど2、3イタ電したくらい。でも、まあ、初取材なんてみんなこんなもんだからいいかなあ、だって。それに、これはこれで逆にいい感じにまとまっているんじゃない、とってつけたようなラチャブリオチもついたし。これくらい考えれば十分だろう。明日は明日の風がふく。明日の気分任せでいいや。2時過ぎ、一人反省会だか一人会議にて、というような結論を一応律儀に出して眠りにつく、そんなナチュラルボーン戦場特派員（24歳と7ヶ月）だった（あ、頭に自称プロを、各々勝手につけておいてやって、起こさないように。まあ、そっとしておいてやろうよ。2012年の俺より。ああ、明日どうなるんだろう、気になる〜。ま、12年後の俺は当然知ってるけどね）。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月26日(水)』

<http://p.booklog.jp/book/43314>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43314>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43314>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.